

# 中小企業景況レポート vol.52

2017.7~9

## 業況判断D I 7月~9月は低下し2期ぶりのマイナス

### 【2017年7月~9月期の業況判断D I】

今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で8.9ポイント低下し△6.1と2期ぶりのマイナスとなりました。

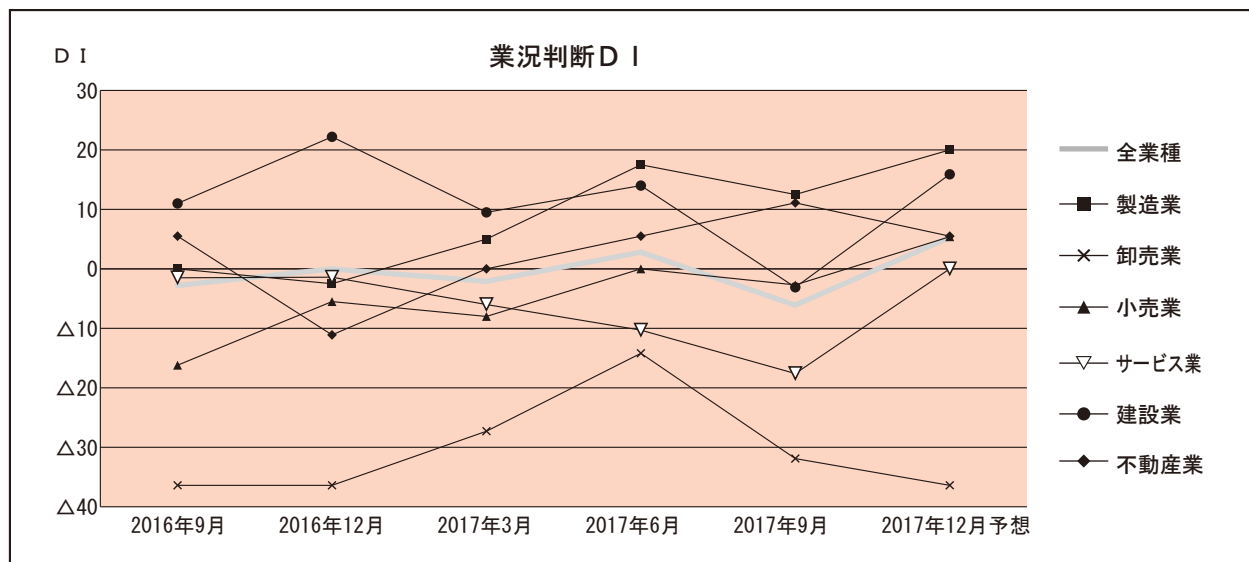
前回調査比で不動産業を除く5業種のD Iが低下しました。特に卸売業、建設業が10ポイント超の大幅低下となり、全体のD Iを押し下げる要因となりました。

### 【2017年10月~12月期の予想業況判断D I】

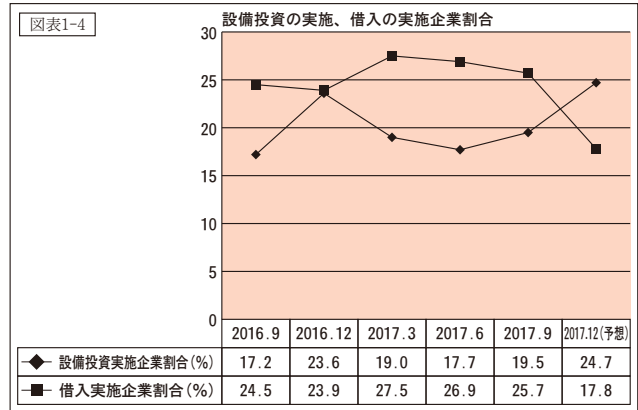
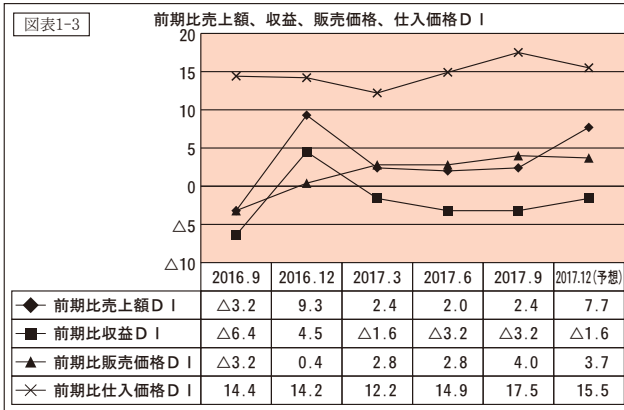
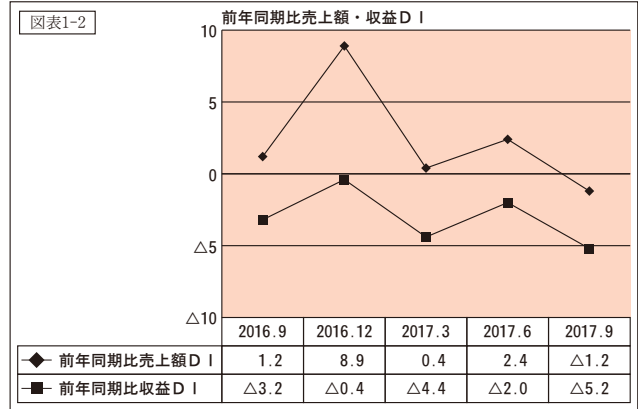
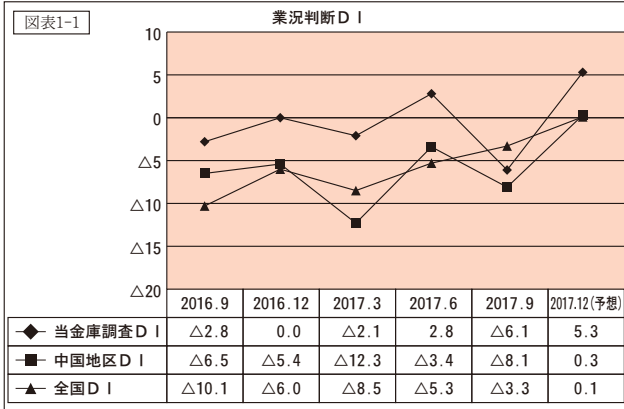
次回調査期間の業況判断D Iは全業種総合で5.3(今回調査比11.4ポイント上昇)とプラス予想となっています。サービス業、建設業で10ポイント超の大幅上昇予想となっており、卸売業・サービス業以外の4業種でD Iがプラス予想となっています。

業種名	時期	2017年 4月~6月		2017年 7月~9月		2017年 10月~12月 (見通し)
全業種総合		2.8	↘ Δ8.9	Δ6.1	↗ 11.4	5.3
製造業		17.5	↘ Δ5.0	12.5	↗ 7.5	20.0
卸売業		Δ14.2	↘ Δ17.7	Δ31.9	↗ Δ4.5	Δ36.4
小売業		0.0	↘ Δ2.7	Δ2.7	↗ 8.1	5.4
サービス業		Δ10.3	↘ Δ7.3	Δ17.6	↗ 17.6	0.0
建設業		14.0	↘ Δ17.1	Δ3.1	↗ 19.0	15.9
不動産業		5.5	↗ 5.6	11.1	↘ Δ5.6	5.5

景況 天気図の目安  
 D I 好調 ← 30以上 10以上30未満 0以上10未満 Δ10以上0未満 Δ30以上 Δ10未満 Δ30未満 → 低調



# 全業種総合



## 景況 ～業況判断D I 低下し2期ぶりのマイナス～

今期の業況判断D Iは全業種総合で前回調査比**8.9ポイント低下**し2.8→△6.1となりました(図表1-1)。前回調査比で不動産業を除く5業種のD Iが低下し、特に卸売業、建設業が10ポイント超の大幅低下となるなど、全体的に停滞感が広がっています。今期調査において中国地区D I(△8.1)は上回ったものの、全国D I(△3.3)を下回りました。

次回調査期間(2017年10月～12月)の業況判断D Iは△6.1→5.3と今回調査比**11.4ポイントの大幅上昇予想**となっています。

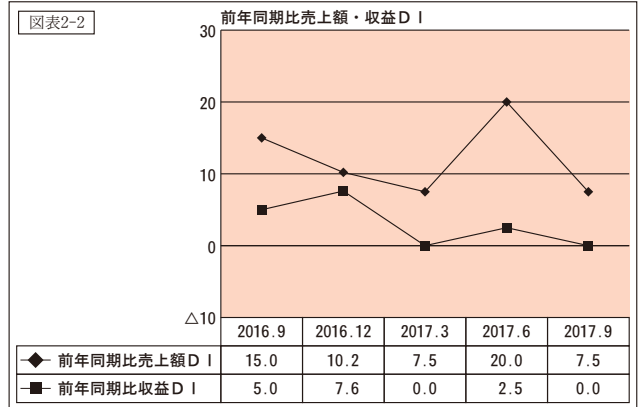
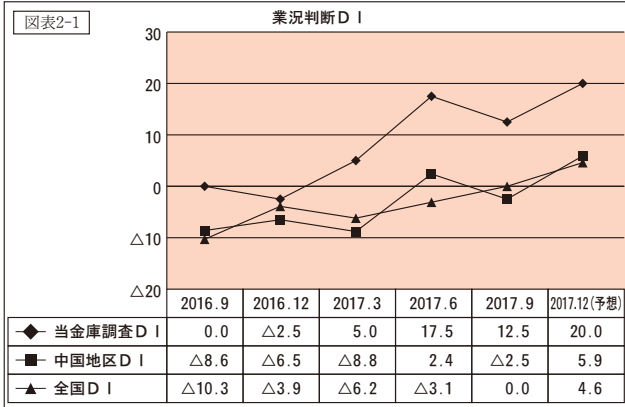
前年同期比売上額D Iは△1.2、同収益D Iは△5.2(図表1-2)であり、前回調査との比較である前期比売上額D Iが2.4とプラス、同収益D Iが△3.2となっていることから、売上の増加に対して、利幅が確保できていない状況であることが窺えます(図表1-3)。

今回調査期間で設備投資を実施した企業の割合は19.5%となり、前回調査比で1.8ポイントの上昇、借入を実施した企業の割合は25.7%と前回調査比1.2ポイントの低下となりました。

次回調査期間に設備投資を予定している企業の割合は24.7%であり今回調査期間に設備投資を実施した企業の割合と比較して5.2ポイントの上昇、同じく次回調査期間に借入を予定している企業の割合は17.8%と今回調査期間に借入を実施した企業の割合と比較して7.9ポイントの低下となっています(図表1-4)。

また、設備状況の見通しを「やや不足」「不足」と判断している企業のうち、設備投資をおこなわないと回答している企業が50.0%と前回調査比7.9ポイントの低下となっており、わずかながら設備投資意欲が上昇していることが窺えます。

# 製造業



## 景況 ～今期低下 来期は上昇の予想～

今期の業況判断D Iは17.5→12.5と前回調査比**5.0ポイントの低下**となりました(図表2-1)。また、来期の予想業況判断D Iは12.5→20.0と**7.5ポイントの上昇**予想となっています。

調査期間に発表された岡山県金融経済月報(以下、「日銀月報」)では、岡山県内の生産は「横ばい」から「持ち直し」との判断であり、特に鉄鋼が「高めに推移」となっていることから今後の景況感上昇に期待が持てます。また、中国地区D I(△2.5)、全国D I(0.0)と比較しても当金庫営業エリア内における製造業の景況感は大幅に高くなっています。前年同期比売上額D Iは7.5、同収益D Iは0.0となっており(図表2-2)、売上に対して収益性が上向いていないことが窺えます。

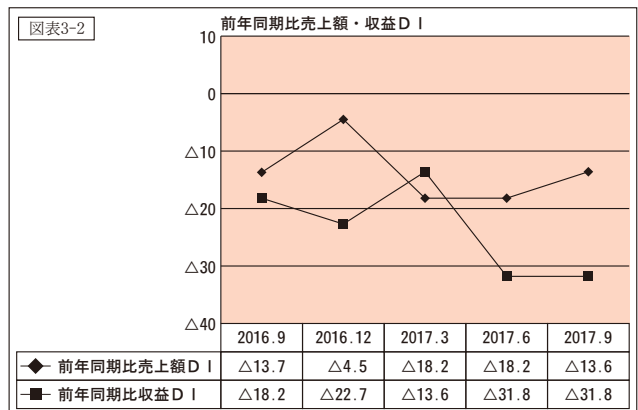
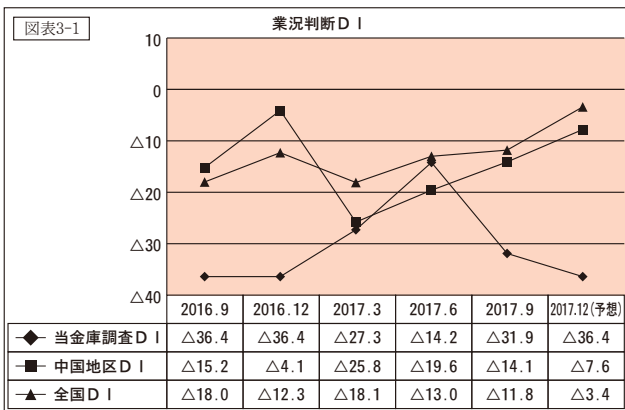
経営上の問題点では「人手不足」「工場・機械の狭小・老朽化」、当面の重点経営施策では「人材を確保する」との回答率が上昇しており、景況感の上昇局面において人員確保と設備の更新が課題となっています。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	35.0%	人手不足 同業者間の競争の激化	25.0% 25.0%	工場・機械の狭小・老朽化	22.5%
当面の重点経営施策	販路を広げる	52.5%	経費を節減する 人材を確保する	27.5% 27.5%	情報力を強化する	15.0%

# 卸売業



## 景況 ～今期大幅低下 来期も低下の予想～

今期の業況判断D Iは△14.2→△31.9と前回調査比**17.7ポイントの大幅低下**となりました(図表3-1)。直近2期で景況感は回復基調にありましたが、ここきてブレーキがかかった形となり、来期の予想業況判断D Iも今回調査比で**4.5ポイント低下**し、△36.4となる予想です。

前年同期比売上額D Iは△13.6、同収益D Iは△31.8と共に大幅なマイナスとなっており(図表3-2)、他業種と比較しても厳しい状況であることが窺えます。

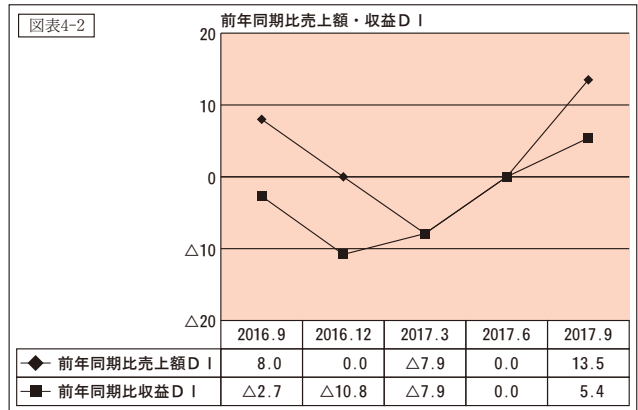
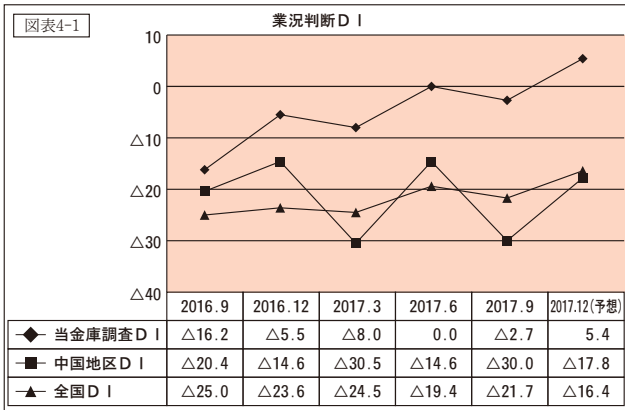
経営上の問題点、当面の重点経営施策の回答から、同業者間で互いに販路拡大を進めていることから競争が激化している様子が窺えます。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	同業者間の競争の激化	54.5%	売上の停滞・減少	50.0%	利幅の縮小	22.7%
当面の重点経営施策	販路を広げる	59.1%	経費を節減する	54.5%	情報力を強化する 流通販路の見直しをする	13.6% 13.6%

# 小 売 業



## 景 況 ～今期低下 来期は大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは0.0→△2.7と前回調査比2.7ポイントの低下となりました(図表4-1)。また、来期の予想業況判断D Iは△2.7→5.4と8.1ポイントの上昇予想となっています。

今期D Iはマイナスとなりましたが、小売業は直近1年間で緩やかながら右肩上がりに推移しています。「日銀月報」では、岡山県内の個人消費、百貨店・スーパー売上高ともに「持ち直している」との判断であり、10月に発表された岡山財務事務所による「岡山県内経済情勢報告」においても「緩やかに回復」との判断となっていることから、来期以降の景況感上昇に期待が持てます。また、前年同期比売上額(13.5)・収益D I(5.4)共にプラスとなっていることから小売業は回復基調であることが窺えます。

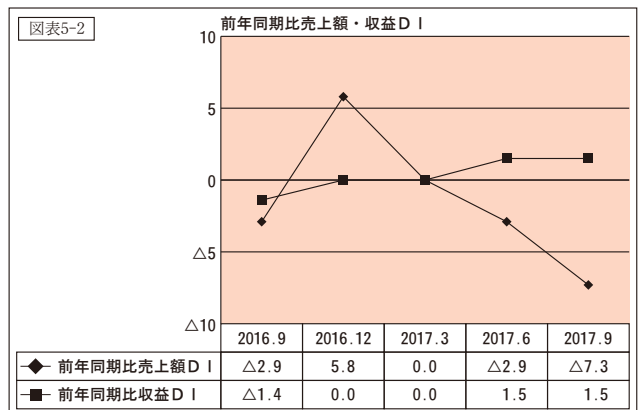
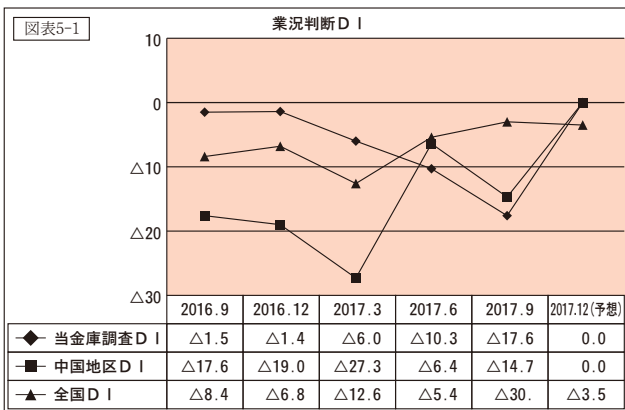
しかしながら、同業者間ならびに大型店との競争の激化は当面続くと考えられることから、いかに自社の強みを把握し差別化を図った事業展開をおこなうかがポイントとなります。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	同業者間の競争の激化	48.6%	売上の停滞・減少	35.1%	大型店との競争激化	27.0%
当面の重点経営施策	経費を節減する	37.8%	売れ筋商品を取り扱う	29.7%	販路を広げる	27.0%

# サービ 業



## 景 況 ～今期低下 来期は大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△10.3→△17.6と前回調査比7.3ポイントの低下となり3期連続で低下となりました(図表5-1)。なお、来期の予想業況判断D Iは△17.6→0.0と17.6ポイントの大幅上昇予想となっており、年末に向けて景況感の回復が期待されます。

また、前年同期比収益D Iは1.5と収益性に改善が見られますが、同売上額D Iは△7.3と景況感の比較的高かった前年同期に比べ低下しています(図表5-2)。

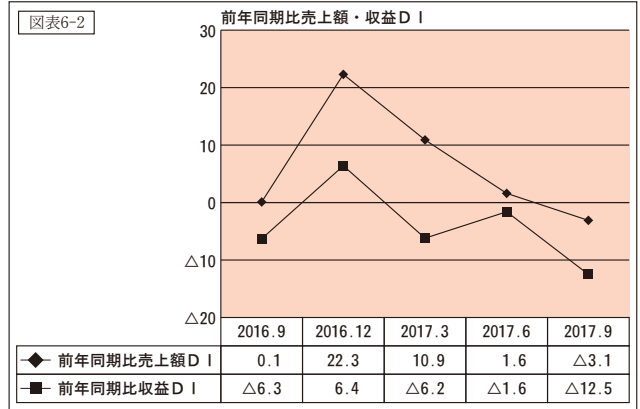
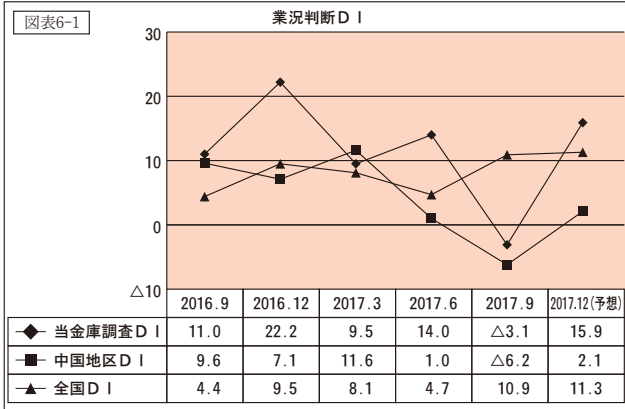
サービス業においても依然人手不足の状態が続いており、売上確保・増加に向けた「販路拡大」に向けた活動の足かせとなっていることが窺えます。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	41.2%	人手不足	33.8%	同業者間の競争の激化	27.9%
当面の重点経営施策	販路を広げる	39.7%	経費を節減する	38.2%	人材を確保する	25.0%

# 建設業



## 景況 ～今期大幅低下 来期は大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは14.0→△3.1と前回調査比**17.1ポイントの大幅低下**となり、平成27年6月期以来のD Iマイナスとなりました(図表6-1)。なお、来期の予想業況判断D Iは△3.1→15.9と**19.0ポイントの大幅上昇予想**でD Iもプラスとなる見込みです。

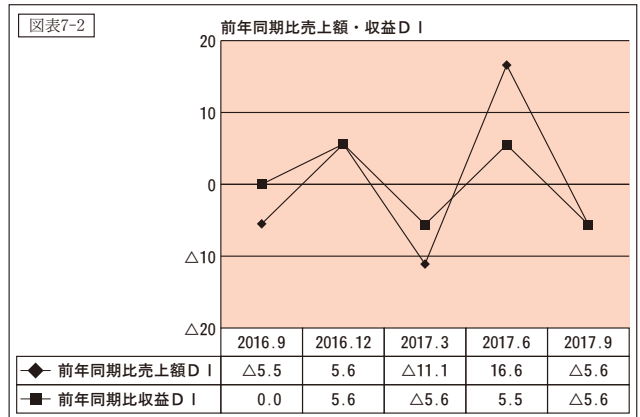
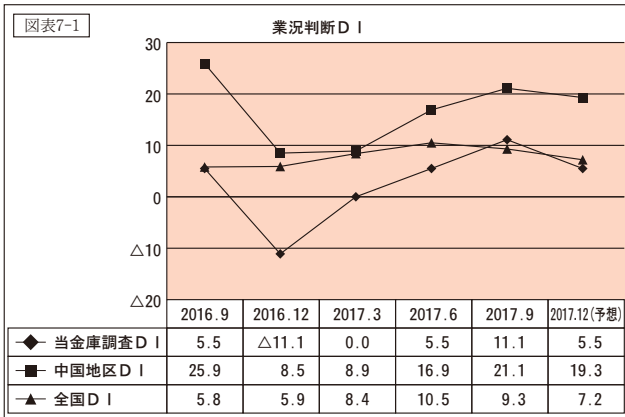
「日銀月報」では住宅投資・公共投資ともに「弱含み」であり、建設業においては停滞感が出ています。また、経営上の問題点で「人手不足」、当面の重点経営施策で「人材を確保する」との回答率が50%以上を占めており、受注はあるものの人手が不足していること、技術的に対応できる人材が少ないことなどが景況感の低下を招いている要因のひとつと推察されます。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	人手不足	50.0%	同業者間の競争の激化	35.9%	売上の停滞・減少	31.3%
当面の重点経営施策	人材を確保する	51.6%	販路を広げる	43.8%	経費を節減する	39.1%

# 不動産業



## 景況 ～今期上昇 来期は低下の予想～

今期の業況判断D Iは5.5→11.1と、前回調査比**5.6ポイントの上昇**となりました(図表7-1)。なお、来期の予想業況判断D Iは11.1→5.5と**5.6ポイントの低下予想**となっています。

前年同期比売上額D I、同収益D Iともにマイナスとなっていますが、前年同期である2016年9月期が比較的高い景況感であったことが影響しているためであり、不動産市場が活性化していることに変わりないものと考えられます(図表7-2)。経営上の問題点の回答から、「商品物件の不足」「商品物件の高騰」が増加していることから、不動産市場の活性化、景況感上昇に伴って、地元の同業者は情報力を駆使して競合に先駆けて物件確保、売却を進めるべく活動していることが窺えます。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	商品物件の不足	61.1%	同業者間の競争の激化	38.9%	大手企業との競争の激化 商品物件の高騰	22.2%
当面の重点経営施策	情報力を強化する	55.6%	宣伝・広告を強化する	33.3%	経費を節減する	27.8%

## 調査先企業の声

### 製造業

- ・受注は増加傾向にあるが、人手不足により全ては受け入れられない。特に若手工員の増員が課題である。（自動車部品加工）
- ・販路開拓、新規顧客獲得に注力しているが、機械が老朽化しており生産性が上がらない。補助金を活用した設備導入を検討している。（出版・印刷）
- ・人員の確保に苦労している。あわせて機械の老朽化に伴い設備の更新も検討している。（デニム生地製造）

### 卸売業

- ・流行をいち早くキャッチするべく関東方面に出向き生地の選定をおこなっている。（デニム製品卸）
- ・同業他社との価格競争が激しく利幅は減少している。今後は粗利を意識して取引先の見直しを図りたい。（理容器具卸）
- ・木材の価格が高騰しているが、なかなか販売価格に転嫁できない。経費削減を中心に利益の確保に努める。（木材卸）

### 小売業

- ・中国での商標登録を進めており、今後は中国との取引増加が見込める。（茶小売）
- ・教材・絵本販売に特化しており、優良な商品を揃えているのが当社の強みであるが、近年は大手からの攻勢が厳しく、価格競争に陥っている。（教材・教具販売）
- ・岡山市内に調剤薬局を6店舗構えているが、今後は訪問販売に注力するなど新たな事業展開を模索している。（薬局・医薬品小売）

### サービス業

- ・今年に入り大幅なタイヤの値上げが実施された。顧客のタイヤ交換サイクルが伸びることが予想されるため、商品提案力の強化と新規顧客獲得に注力する考えである。（車整備）
- ・食材の高騰に苦慮しているが、企画や店舗の雰囲気づくりに注力し、リピーター・固定客を増加させるべく努力している。また、人材確保も大きな課題となっている。（飲食店）
- ・大手企業との競合が厳しいが、必要以上に販路拡大はおこなわず、既存顧客へのより充実したサービスの提供をおこなうことで満足度を高め利益に結び付けていく考えである。（貸衣装）

### 建設業

- ・人材の確保に大きな課題がある。1年ほど教育し現場で使えるようになった頃にやめてしまう傾向がある。技術面だけでなく、人間関係の構築にも注力したい。（左官工事）
- ・現在受注先は全て首都圏であり、ほとんど滞在して仕事をこなしている。オリンピックまでは受注極めて旺盛とのことである。（とび・土木工事）
- ・クレーン車が老朽化しており業務への影響が懸念されるものの、先行き不透明感があり、買い替えを躊躇している。（鉄骨工事）

### 不動産業

- ・商品物件が不足しており、エリアを広げて物件を探している状態である。（不動産売買）
- ・商品物件が不足しているが、代表者の地縁・人縁を最大限活用し情報収集をおこなっている。地元密着の不動産屋として大手にはできない小回りの利いた営業を意識している。（不動産仲介）
- ・今年は土地の売却など不動産の動きが活発になっており、仲介業としては多忙で利益も増加している。（不動産賃貸）

# おかやま信用金庫のサポートメニュー



地域性

中小企業専門性

協同組織性

おかやま信用金庫では地元“おかやま”の中小事業者のお客様、個人のお客様の繁栄と、安心感を抱いていただくための様々なサポートメニューを用意しております。

お取引いただいている営業部店、またはお近くの営業部店にお気軽にご相談ください。スタッフが最適なソリューションをご提案します。

## 調査の要領

- 1) 調査時点 2017年9月1日～7日  
 2) 調査対象期間 2017年7月～9月（9月については感触）  
 3) 調査対象 250企業（有効回答数249企業・回答率99.6%）  
 4) 調査方法 おかやま信用金庫各営業部店の職員による面談での聞き取り調査  
 5) 分析方法 各質問事項で「良い」（上昇）とした企業が全体に占める構成比と、「悪い」（低下）とした企業の構成比との差（判断D I）を中心に分析  
 ※D I＝ディフュージョン・インデックスの略  
 一般にプラスは好調、マイナスは不調を示す（仕入価格D Iについては逆）  
 6) その他 全国D Iならびに中国地区D Iは、全国の信用金庫が中小企業約16,000先を対象として調査し、信金中央金庫が取りまとめた数値を使用

（単位：先、％）

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
回答企業数	40	22	37	68	64	18
回答率	100.0	100.0	97.4	100.0	100.0	100.0

## 従業員数

（単位：先）

業種 (単位：人)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
0～9	24	17	30	48	52	16	187	75.1%
10～19	3	4	3	9	8	2	29	11.6%
20～29	8	0	1	6	2	0	17	6.8%
30～49	1	0	2	3	2	0	8	3.2%
50以上	4	1	1	2	0	0	8	3.2%
計	40	22	37	68	64	18	249	100.0%
構成比	16.1%	8.8%	14.9%	27.3%	25.7%	7.2%	100.0%	

## 資本金

（単位：先）

業種 (単位：千円)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
10,000未満	19	7	23	37	33	8	127	51.0%
10,000～49,999	18	15	13	28	31	10	115	46.2%
50,000～99,999	3	0	1	2	0	0	6	2.4%
100,000以上	0	0	0	1	0	0	1	0.4%
計	40	22	37	68	64	18	249	100.0%
構成比	16.1%	8.8%	14.9%	27.3%	25.7%	7.2%	100.0%	

## お客さまへのインタビュー

岡山市内にて建設業を営んでいる企業の社長様にインタビューをおこないました。

### ～事業の内容・現状について～

ビルなどの比較的大きな施設の内装工事を主に手がけています。近年は受注が旺盛で多忙な時期が続いていましたが、病院の建設ラッシュがひと段落し公共工事を中心に若干受注が下火になった感があります。ただ、オリンピックの関係で関東方面の受注確保に尽力している同業者もあり、地元岡山では同業が手薄となる可能性もあるため、仕事がなくなるという懸念は抱いていません。

### ～当面の重点施策について～

どの業界も同様ですが、人手不足が深刻です。若い従業員を教育しても長続きしない傾向があります。加えてベテラン従業員は高齢化が進み、事故などの心配もあります。若い従業員に対し技術面での教育だけでなく、コミュニケーションをしっかりと取り、他の従業員も含めた人間関係の構築を図ることで、離職を少しでも減らせるように努めていきます。

### ～将来像～

今まで培ってきた高い技術力を若い世代に引き継ぎ、世代を超えて従業員がいきいきと仕事のできる活気のある企業にしたいと考えています。

## 編集後記

今回調査で全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で8.9ポイント低下し△6.1となりました。当金庫営業エリア内における直近1年間のD Iはプラスとマイナスを交互に行き来している状況であり、業種によつてのばらつきも大きいことから、地域全体での景況感の高まりにはもうひと息といった状況です。また、以前にも増して全ての業種において人手不足が深刻となっており、業容拡大、新事業展開を進めるにあたっての足かせとなっています。おかやま信用金庫では地域の支援機関などとの連携により、人材のマッチングをはじめとした経営に関する様々な課題解決に向けた取組みのお手伝いができる体制を構築しています。地元岡山を盛り上げ、地域活性化・地方創生に向けて全力で取り組んでまいりますので、お気軽にお問い合わせください。



おかやま信用金庫  
価値創造部

— 2017.12 —

〒700-8639 岡山市北区柳町1丁目11番21号  
 TEL 086 (223) 7672 FAX 086 (226) 2288  
<http://www.shinkin.co.jp/okayama/>  
 E-mail: sien@okayama.shinkin.jp